

グローバルトーク

【SiTio 繋がる & エスパシン】

と き /令和4年10月1日（土）14：00～15：10

ところ /奥の細道むすびの地記念館 多目的室

参加者 /12人



1 内 容

市長が「大垣市には現在 5,000 人を超える外国人市民がお住まいで、我々日本人とお互いの文化的な違いを認め合い、地域社会の一員として共に活躍できる社会を目指すため、外国人の皆様から意見をお聞きし、有意義なひとときとさせていただきたい。」と述べました。

参加者の自己紹介の後、「SiTio 繋がる」及び「エスパシン」の活動紹介をはじめ、大垣市に暮らす外国人のアンケート調査報告を聞き、大垣市に対する思いを伺いました。

閉会にあたり、市長が「皆様に大垣市を愛してもらっていることが分かりました。日本人、ブラジル人ではなく、心と心でつながって、市民に寄り添う大垣市にしていきたいと思っています。」と述べました。

2 意見交換

(1) SiTio 繋がる

安心できる多文化社会の実現に向けて、市民同士で考え、支えていく方法を見つけるため、令和3年5月に「SiTio 繋がる」という市民活動団体を立ち上げました。

「SiTio」は「場所」と「農家」という二つの意味があり、この二つが繋がってほしいという思いがあります。

大垣市を第二の故郷と決めた者として、農家の高齢化、後継者問題などについて、大垣のためにできることをしたいという思いで、上石津で地元の方から農業を教わっています。母国の野菜にもチャレンジし、仲間と共に畑仕事を楽しんでいます。

また、これからは、陶芸教室や環境問題の意識を高める活動等も計画しており、たくさんさんの夢を持って活動しています。

(2) エスパシン

「エスパシン」は、主に子どもたちの勉強のサポートをしています。その他、ポルトガル語、フランス語などの言葉や、テコンドー、料理、ダンス、図工などの活動もしています。また、学校に溶け込めていない子の心のケアもしています。

外国人世帯の中で日本語ができるのは、ほとんどが子どもで、日本語が話せない親とのコミュニケーションがとれないという問題があります。

私たちは両親が安心して働けるようサポートし、これからも子どもの居場所を提供していきたいと思っています。

(3) 市長

新型コロナウイルス感染拡大の中で、ワクチン接種などの情報発信に外国人コミュニティの皆様のご協力をいただき、スムーズに対策を取ることができました。こうした団体があることをありがたく思っています。

現在、農業に携わっているのは日本中を見ても高齢者が多く、後継者が不足している状況です。食は大切なもので、「SiTio 繋がる」の皆様の活動は素晴らしいと思います。これからも大垣市を一緒に支えていただきたいと思います。

また、日本で暮らす上で一番心配されていることは、子どもの教育だと思います。子どもたちが安心して暮らしていけるよう、「エスパシン」のような、日本人とブラジル人の垣根を越えたつながりが広がっていくとよいと感じました。